

令和5年12月22日 教育委員会会議録

- 1 日 時 令和5年12月22日（金） 午後3時～午後3時28分
- 2 場 所 中央公民館 大会議室
- 3 出席委員 金沢智也教育長、白鳥樹一郎委員、細谷真紀子委員、伊藤洋子委員
- 4 欠席委員 中村篤委員
- 5 出席者 高橋一実教育部長、大沼裕子事務局次長、西村尚人教育企画課長、横山いずみ教育総務課長、細谷直樹次長（兼）学校教育課長、佐藤哲也社会教育青少年課長、小関仁美少年自然の家所長、阿部宏図書館長、斎藤浩之学校給食センター所長（兼）栄養管理室長、志済直史商業高等学校事務長、馬場賢総合学習センター所長、事務局（教育企画課及び教育総務課職員）

会議次第

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 報 告 事 項
 - (1) 山形市の部活動の地域移行に係る取組みについて
- 4 そ の 他
- 5 日 程 等
 - (1) 教育委員会の日程について
 - (2) 教育委員会主催（共催）の行事予定について
- 6 閉 会

会議録

1 開 会 教育長

2 会議録署名委員の指名

教育長…本日の会議録の署名委員は、伊藤委員にお願いしたい。

3 報告事項

教育長…それでは議案がないため、報告事項に移る。「(1) 山形市の部活動の地域移行に係る取組みについて」説明をお願いします。

<学校教育課長より説明>

教育長…ただ今の説明について、意見や質問等はあるか。

白鳥委員…国のスタンスとして、今までと変わらないか。

学校教育課長…公式に変わったという話は聞いていない。初めは3年間で進めるということだったが、現在はもう少し時間をかけて行うことになっていると捉えている。

細谷委員…事業の実施にあたり、モデル事業実施までの課題の中で「保護者説明会での声」として「保護者に係る負担等の心配があること」が挙げられている。こちらについては、山形市PTA連合会への説明会で挙げた意見で間違いないか。

学校教育課長…委員ご指摘のとおりである。説明後、グループ討議があり、その意見をまとめたものを、「保護者説明会での声」としている。

細谷委員…このモデル事業の中に、山形市立商業高等学校と関連性を持たせる検討はなかったのか。

学校教育課長…来年以降のモデル事業として取組めるかどうかを検討しているところだ。市内には大学もあるため、大学との協力も含めて検討を行っている。

細谷委員…山形県中学校体育連盟もかかわっているおり、クラブチームでの中学校体育連盟の参加が認められている中で、山形市ではどのように考えているか。

学校教育課長…山形県中学校体育連盟が考えていることに対し、山形市教育委員会として申し入れ等を行っているわけではない。全国的な流れとして、クラブチームの参加を認める状況であり、その流れの中で、山形県中学校体育連盟が検討していると捉えている。各学校の部活動のあり方については、モデル事業を行い、学校で考える為の材料を作っている段階である。最終的には土日の活動については、部活動はしない、任意参加で行うという山形県の考え方もあることから、そのような方向に進んでいくと捉えている。

細谷委員…部活動に総合活動部があるが、このモデル事業の中でどのような関わり方で継続していくのか。

学校教育課長…任意加入となれば、なくなっていく方向に進むのではないかと今は考えている。

細谷委員…任意加入については、まだ決定事項ではないがそのような考えが出ていると受け取ってよいか。

学校教育課長…委員ご指摘のとおりである。

細谷委員…中学校の部活動ということで話しが進んでいると思うが、小学校の活動についても力を入れているところはある。そのような活動について、小学校についても地域移行は考えているのか。

学校教育課長…山形市として取り組んでいるのは、中学校の部活動の地域移行であり、現時点で小学校の活動については検討していない。しかし、部活動に準じる活動を行っているものについては独自に地域移行の方向を探っている学校もあると捉えている。

教育長…白鳥委員から国のスタンスについての発言があったが、そのことについて触れたい。昨年、全国の教育長会議で初めて部活動の地域移行について、3年間で移行するという話しになった。全国各地で地域移行を行う中で厳しい結果が見えてきたことから、国の考え方も3年間で行うという縛りがなくなった。また、部活動の地域移行については「地域連携・地域移行」という表現にも変わってきている。地域の実情にも様々な違いがあり、スムーズに流れていない状況も散見されている。国全体としても難しい中で進んでいると感じている。

教育長…他に意見や質問はあるか。

<各委員より「なし」の声>

4 その他

教育長…委員よりその他意見や質問等はないか。

白鳥委員…コロナウイルス感染症が少しずつ収束し、様々な芸術文化活動が復活してきている。関連して文部科学省の「現在の教育に関する主な課題」の中に「優れた芸術文化に触れる機会」ということが掲げられている。改めて山形市教育委員会として、関連して取り組んでいることがあれば伺いたい。

学校教育課長…「優れた芸術文化に触れる機会」の確保として、山形交響楽団によるスクールコンサートや、隔年で実施されている音楽教室・演劇教室がある。また、学校によっては、落語や三味線、尺八の演奏会をするといった取り組みもある。他にも、希望制にはなるが、小学5年生の児童を中心に劇団四季のミュージカルの鑑賞をする機会等がある。

白鳥委員…様々なことを自分で選んで見聞を広めることができる流れがある一方で、全く芸術文化に触れる機会がない児童生徒もいると考えられ、二極化しているように感じる。行政としてもフォローしていける点があればお願いしたい。

細谷委員…各学校の給食について伺いたい。コロナ禍前は対面になってグループで食事をとり、コロナ禍中はスクール形式で黙食となっていたと思うが、現状はどのようになっているのか。

学校教育課長…黙食を行っていた時から「黙食を行って欲しい」ということを学校教育課として周知していたわけではない。また、各学校でどのような形で給食を実施しているのかの調査等も行っていない。参考までに、委員の捉えている情報をいただけるとありがたい。

細谷委員…スクール形式で給食を食べていると聞いている。低学年の児童は、それが当たり前の給食のスタイルだと思っているようだ。一部の先生は、給食中に会話をすると注意をするとも聞いている。一律的な見解がないことから、先生方もどうしたらいいか難しい部分があると感じたためこの質問をしたところだ。

学校教育課長…校長先生方とも話していきたい。

教育長…コロナ禍が明けた後、インフルエンザが蔓延しているため、学級閉鎖や学年閉鎖が相次いでいる。そのため、スクール形式から急に対面形式に戻すというのは、校長としても大変勇気のいることなのではないかと思う。その他については、学校教育課長からあったとおりで。

細谷委員…給食の一つの目的として、食育があると思う。そのため、衛生管理をしながらも児童生徒同士の交流があるといいのではないかと感じる。

伊藤委員…コロナ禍でいじめや不登校の数が増え、自殺者の数も増えているということが問題になっている。文部科学省では「児童生徒の自殺予防に係る取組について」通知がされている。その中で、ICT機器を使って児童生徒のSOSの声を拾う案が示されているが、山形市の小・中学校、高校も含めて、どのような進捗状況か伺いたい。

学校教育課長…山形市教育委員会の状況は、ICT機器を用いて担任の先生と児童生徒が直接やり取りをする機能は持っている。しかし、使っている学校もあれば使っていない学校もある。取組みを進めるためソフト等の導入についても検討を続けていきたい。

教育長…他に意見や質問はあるか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…事務局よりその他報告等はないか。

<事務局より「なし」の声>

5 日程等

6 閉会 教育長